

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2012.11.25
VOL. 60

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.03-6826-7802 FAX.03-5273-6895
<http://www.tokyohomeless.com>

冬 ならば、冬らしくあれ

笠井和明

今年もまた冬がやって来た。

いつの間にか新宿では、19回目の越年越冬と云うこととなるが、まあ、長いこと、この都会での冬と向き合い続けている。

長いことやっているかと言って、それが一体何になるのか手探りのまま、しかしながら、多くの仲間を前にすると疲れたから止めますとは言えないまま、流れに身をまかせていると、また嫌な冬が来る。

冬が何故嫌かと言えば、死との連想がそこには必ずあるからである。路上死の前ではまったく無力な我々は、その都度打ちのめされ、どう向き合って良いのか煩悶続ける。雨や雪が降るのをじっと見てみると、きっと都会のどこかでこの瞬間、生命が消えかかっているのだろうと思い、じっとはしてられず街を彷徨する。まるで病気なのであるが、そうさせてしまうのが悲しいかな路上の冬なのである。

今年は「ホームレスの実態に関する全国調査（生活実態調査）」が5年ぶりに実施され、時限立法である「ホームレス自立支援法」が文言等そのままで5年の延長となった年でもある。ある意味大きな節目となった年ではあるが、どこもかしこも生活保護がどうしたこうした、しかも不正受給がどうのこうの、基準が下がるのどうの、との瑣末な話ばかりで、ここ数年「第2セーフティネット」が騒がれていた割には、こちらの分野はさほど注目もされていないようである。

それもその筈で、全国規模で見てもならばホームレス者の数は一時期よりもぐんと少なくなっている。国の平成15年調査では24,090名が19年調査では18,564名、24年調査では9,576名と、景気動向に関係なく、だんだんと人の目には見えにくくなっている（とりわけ地方都市においては）。人の目につかなくなると感心事からもだんだんと外れると云うのは至極当然な事でもあり、残り5年とした自立支援法の延長期間も妥当なところと云えるのであろう。

人の目が去っていくと云う事は路上にとっては良い事のように思える。この状況で何か注目を集めようとする、それは、その思いとは真逆の方向に行ってしまうのが、社会の怖さでもある。知るべき人が知っていれば良い。未だ多くのホームレス者を抱えている地域が地域の問題として、その特性に応じて対処すれば良い。一般化されることによって失われた柔軟性や発想力はこう云う時点にこそ回復される。

本来我々は地道である事には慣れきっている。1994年の冬、「怠け者」と誰からも相手にされな





かった路上の仲間を、ほぼ路上の仲間だけで組織し、階層として社会に一定程度認知させて来たのは我々である。気取らない地道な仲間の営みがそうさせて来たのである。その時の経験則で言えば、一定以上の同情（または外的な支援）は、仲間が生きていく上でさほど必要ではないと云うことである。問題だ、問題だと騒がれる前に、俺らは俺らで底辺らしく生きていくよと云う訳である。

この問題はどこをゴールにするのかと云うのは全くむずかしいテーマであるが、少なくとも対策上は、もう支援は必要ないよと云う仲間が多数を占めるようになって、ならば、そろそろ終わりにしましょよとなって施策は収束する。結果、どれだけの仲間が路上に残るかは、そうそう予測はできないし、我々はその結果を受け止めるしかない。路上で暮らさざるを得ない人々をゼロにしようとする目標は、それはそれで素晴らしいのであるが、それはあくまで努力目標でしかない。ならばなおさら地道な活動を広げ、より多くの「きっかけ」を作ることが我々の仕事ではないかとも思うのである。

とは言いながら、それこそ誰の目にも映らぬよう新たな仲間が新規流入し続けている。今現に路上に居る人々の自立に向けた道筋をようやくつけたとしても、また新たなニーズが路上に溢れると云う悪循環が都会には潜んでいる。東京都が今実施している新規流入防止策とは、「新たに都市公園にテントを張らせない」事を目的にした防止策でしかない。そうなると防衛ラインが狭すぎるので一般的な防止策として考えると、効果は限定的である。

ここに一種の矛盾があり、都は「可視化された路上生活者」は防止しようとするが、「可視化されていない路上生活者」は野放しのままであるとも言える（防止策が十分にはないと云う意味）。いやいや巡回相談もやっていますと都の担当者などは言い訳

をするであろうが、何の権限もなく昼間の公園などを巡回するこの部隊は、実態的に「住民の苦情対策処理班」の域を出ておらず、ホームレス対策の終局局面に変化しておらず、現地点ではこれが防止策であると豪語できるものではない（巡回相談事業を否定している訳ではなく、我々は一定の権限の付与など、より柔軟に動けるよう機能強化を提言し続けている。巡回相談の職員さんは非常に真面目に仕事をしているのであるが、機能が十分ではないのである）。

他方で自立支援センターは一体型へと変化して来た（12月で緊急一時保護センター最後の練馬寮が閉鎖）が、それでも常時満床状態が続いて大盛況である。今となってみれば自立支援システムの全体枠を大幅に縮小させたのは完全な見誤りなのであるが、こう云う決定に対して「間違いであった」とは都は口が裂けても言える訳はない。

自立支援センターには23区内の福祉事務所を通して入所するラインしかないの、都会に流れた末、路上生活を余儀なくされ、もしくは余儀なくされそうになって、テント生活を経ることなく、駅など繁華街で夜な夜な過ごし、これもまたどう仕様もないので、何とかしてもらおうと福祉事務所と相談をして、自立支援センターを紹介されると云うのが今の一般的な姿であり、その情報を知らない、もしくはそれにあまり期待を持たないものが路上（主に駅、繁華街周辺）に滞留すると云う構図である。

自立支援センターのない地方都市では自立支援センターの代わりに生活保護での保護となるのであるが、地方での生活保護では仕事がそうそう見つからない（マッチングする仕事が相対的にない）ので、稼働年齢層はこの窮屈な制度に魅力を感じることなく都会に流れていく。地方では循環することは少なく、地方から都市への移動を含め、大きな円状で循環している姿である。

この間、ホームレス問題について全国的な議論と云うものが進められているが、大都市でこの問題を扱っている立場からすれば、それらはあまりにも空論的で抽象的な議論にならざるを得ない。全国化して一般化してしまうと、それぞれの地域の実情がぼやけてしまい、仕舞には何を議論をしているのか分からぬようになってしまう。まあかつての「23区+都」の24人の議論と同じで、路上生活者が多い区と少ない区の「温度差」と云うのが問題になった頃があったが、まさにこの「温度差」が建設的な議論の妨げになっているようにも思える。

ざっくりと言うならば、大都市と地方都市は分離して考え、大都市には都市機能として新規流入者を素早く捕捉する機能を新設し、地方都市には雇用の創出をと思うのであるが、厚生と労働、国と地方自治体などなどの縦割りのラインが錯綜している中にある問題だけにそうそう簡単に割り切れないようである（そんな訳でもあり、また、あまりにも業界団体化している現状に嫌気がさし、ホームレス支援全国ネットからはこの春脱退した）。

社会は新しい問題が大好きだと云うのもある。今話題になっている厚生労働省の「生活支援戦略」の議論などを見ていると面白いのであるが、要はワンストップの相談所を、消費税の増税分で、社会保障がいかに充実しているかのようにつくってみよう云うのであるが、東京で云うならば、山谷地域の中にある「城北福祉センター」などまさにワンストップサービスの先例のようなもので（なんと1965年開設である）、応急援護から宿泊援護、各種相談、医療支援から就職斡旋（一時期前までは貯蓄支援）まで一つの建物の中で幅広く機能していたのであるが、このような先例を再評価してみるとかの発想はまったくない。そんな訳なので、今やこのセンターは東京都の「お荷物外郭団体」と化してしまっている。ここで長年培われた生活困窮者への支援ノウハウはこのまま埋もれてしまって良いのであろうか？ そうなれば行政にとっても大きな損失であると思うのであるが、新しもの好きの人々はそんなことは気にしてもいない。

まあ、地域対策（山谷対策）のウエイトがかつては強かったので設置場所については、今になっては利便性は高くない。ならばこの機能をそのまま北の玄関口である上野の近くにでも移転してしまえば（かなり乱暴であるが）、ホームレス化の予防としての機能、生活困窮者の自立支援に向けたワンストップ機能は十分果たせると思うのである。

とは云え、城北福祉センターすら知らないし、何をしているのかさえ理解していない者が今や圧倒的である。それに加え新しいところには予算が付き、古いところは予算が削られると云う行政のおかしな構造がある。蓄積とか発展とかそのような言葉とは無縁な場所にこの国の政治とか行政はあるので、まだ十分に使えるビルをぶっ壊しやたらと使いづらいビルを乱立させ、街にはマスコミに取り上げられなければ経営できないラーメン屋ばかりとなるのである（たとえが意味不明であるが）。

きっと、政治家や評論家や大学教授や専門家などこの国の目立ちたがり屋さんたちは自意識過剰屋さ

んばかりで、その目的は自らの「名誉」や「地位」や「権力」をただ高めたいだけなのだろうが、（元知事とこれだけは意見は一致するが）そう云う「我欲」だらけの国民性が今日のこの国の体たらくの一つの原因なのかも知れない。

まあ、それを言ってしまったら終わってしまうのであるが、東京においては山谷対策などはもはや過去の物語であり、そこから影響が多分にあるホームレス対策も既に歴史になりつつある。しかし、残念ながら、今はそこから先へとはつながってはいない。ホームレス対策を主語にすれば、この対策の推進力は東京においてはテント対策（都立公園、区立公園）だけで終わってしまったと言って良いのかも知れない。後はケセラセラで、東京都福祉保健局は何をしたら良いのかすら分からず、毛布をかぶり、ついには引きこもってしまった。

話は変わるが、この夏、清水精一師の「大地に生きる」（初版1934年）が河出書房新社から再版されていると聞き、さっそく取り寄せ、じっくりと再読する機会があった。この書は「サンカ研究」第一級の資料とされ、民俗学における古典と言われているが、決してそれだけの書ではなく、否、そのようにレッテル化することが本質的に間違いであると思わざるを得ない程、今の私たちでさえ（だからこそ、）心えぐられる名著である。

清水師と同世代の社会事業家は賀川豊彦が圧倒的に有名（両巨頭とも1888年生まれで同い年、また同じく関西地方の貧民窟など底辺を舞台に活動。同じく東京で有名な横山源之助は17歳上で同時代人である）であろうが、清水師の偉業は、貧民窟の生活でさえ「愚禿に還るのでなくて聖者や英雄を真似る、同朋として生きていくのではなくて弟子として臨むようになる。」と自覚し、「大地にひれふ姿、それこそ愚禿の相であろう。祖父以来傲慢の血は私



の身に流れている。懺悔し得ぬ懺悔ながらもせめては一切業の前に土下座してひれ伏すことによって、祖父以来の罪障の消滅の一端としよう。私の心はしきりに動くのであった。天地自然の心を心とする生活は一応愚禿の心を味わう乞食であろう。ますます私は乞食に引き付けられるのであった。」（「大地に生きる」より）と、当時どこの貧民窟でも行われていた「同化政策」「社会事業」などの欺瞞さを超え、あくまで業の追求、愚禿（親鸞が自称に用いた）へと至らんとするすさまじき修行の「道」と云う、人間的な視点で底辺へ底辺へと下ったことであろうし、しかも、そこで同朋をついに見だし、名声などには目もくれず共に大地に生き、そして、それを歴史に残した点である。おそらくこの時代は記録に残さなかったり、歴史に残っていないだけで、清水師のような名もなき人々がそれぞれの思いの中で底辺へ、底辺へと足を踏み入れていたであろう。

近代化を急ぐ社会の中、そこから取りこぼされた人々への愛は、今よりきつと高見に立ったものだったのかも知れない。

度重なる乞食狩りの末、「農」を基本とする「同朋園」を開設するが、そこでも清水師は煩悶し続ける。「乞食を廃めてもらったのはよい。しかし乞食を廃めて真に人間として幸福になっているであろうか。ただ濁流に流れて行く人間に終るならば、決して乞食救済どころでなくかえって乞食を苦しめているに過ぎないとも考えられるのである。」（同上）。多くの社会事業が「廃めさせる」のみが目的となって、その後の事を考えず、語らないのは今と同じ。求道なき説教がまかり通っているのも今と同じ。「パンと生死の問題とを切り離している観念の遊戯者は別問題だが、今の世の声を本当に聞き、その悩みを真に自分のものとする時、今一層体験と思索を深め、そしてその救いへの根本を究めて、その救われ行く平凡道の具体的なものを一つ一つ掴得せんとする念を強くせずにおれないのである。」（同上）。そんな事を言われたら、口先三寸でしか生きてこれなかった己の我欲さを恥じるばかりである。

道は長い。

今の我々は清水師が人生をかけ煩悶してきた「道」の上に立っているのであるか？清水師と共に生きて来た人々の伝承者になれているのだろうか？

残念ながら分断されていると言わざるを得ない。

人が人と接し、人が人を支えることの意味を深く考える者など、この世界でも、また福祉業界の中でも、そう多くはいない。我々と、この国はまだまだ無力である。

24時間の都市機能（インフラ的機能）として、交番があり、消防署があり、病院があり、タクシーもあり、近年はコンビニなどもそんな機能を担っているが、それぞれが、それぞれの分野で意外と役立っている。

東京にはやたらと人が多い。かつて新宿の街は不夜城などと呼ばれていたが、今や新宿のみならず他の繁華街も同じようなもので、不況の中、サービス業など消費部門がやたらと発達し、稼げる時間帯も幅が広くなり、それに従い勤務体系も多様化し、今やいつが昼間なのかも分からぬような都市になり果ててしまっている。まあ、それに伴い色々なトラブルであるとか、新たな社会問題も発生しては消えて行くと、秩序などどこ吹く風の勢いである。せめてもの救いは国電が走り去ってから始発までの（たった）3時間31分の時間は大量の人口移動はないので、駅だけは静かになる事ぐらいか。

終電を乗り遅れるとあとはタクシーか深夜バスくらいしかなく、移動を諦めるとしたら、24時間営業の居酒屋か飲食店なり、ビジネスホテル、サウナ、漫画喫茶なりで夜を明かす事となる。しかし、まあ、（お金さえあればの前提だが）これだけの選択肢や居場所のある都市と云うのは世にも珍しい。これらもまた東京の都市機能の中にすっぽりと包み込まれているようである。もちろん、これらは東京西部圏で言えば、新宿であるとか、池袋、渋谷、六本木であるとか、繁華街特有の現象であり、住宅地を中心とする他の地域はそうそう時間の崩れはなく、満員電車で揺られながら善良な市民は通勤をしているのである。しかしながら、路上生活者はこれらアウト



ロ一的な繁華街周辺に群れ易い。これが別の面の新宿問題でもある。

都市公園や河川敷のテント問題、仮小屋問題はど
うするのだと、ちゃちゃが入りそうであるが、ある
意味、この問題は施策上は既に終わった問題であり
(解決策が容易に見いだせると言う意味で、決して
すべて解決した訳ではないが)、路上生活者対策の
本筋は、未だ手つかずの繁華街へと移る段階である。

終電後の繁華街パトロールと云うのは路上生活を
未然に防ぎ、長期化させないと言う意味でも有効な
手段である。現在そこは街の警察官や施設の警備員
が起点にしかっていない。それぞれ親切な人も数
多くいるのは知ってはいるが、しかしながら、治安、
防犯であるとか、私有財産の警備を職務とする人々
に路上生活者を扱わせるのは荷が重すぎる。

これらと連携したとしても、別の拠点が必要だし、
別の人員が必要だし、別の（留置所ではない）施設
(シェルター) も必要である。

そんな事言うならお前らボランティアでやれよ
と、良く言われるのであるが、そこが悩みどころで、
昼間仕事をしている人がどんなに意識したとして
も、体力的、精神的にはまず無理な作業で、しかも
権限も仕組みなにもなければ、発見しても話し相手
にしかない。

てな訳で、これは都市の仕組みとして、都市のイン
フラとして、都市の機能として必要なのではない
だろうか？

これ以上路上生活者を増やさないためにも、路上
生活を出来ればしない、路上生活になったとしても

早期にそこから別の場所へ移ってもらう。そして、
シェルターから昼間の福祉なり自立支援なりにつな
げていける。そんな夜から昼への架け橋になるよう
な仕組みを夢想するのである。そして、それさえ出
来れば、この国の底辺の名もなき人々の歴史上に、
少しでも貢献することができたのかなとも思えるの
である。

本当のことなど知りたくもない。物事を分かりや
すく語られたくない。物事に白黒もつけたくもない。
灰色のまま、灰色のように生きて来た人々と我々は、
その色を認める者とししか同調はしない。足を踏み外
した場所であるが、そうであるからこそ、振り回さ
れずそこに留まり、そこを究めたいと思うのである。
そこからしか見えないものは、やはり、それでもそ
れは真実だと思うようにして・・・。

こんな事を思いながら多忙なと云うか、何かに振
り回されていると云うか、世の中に飽き飽きしてと
云うか、あっと云う間に一年が経ち、されとて我々
の課題に関してだけは何の前進もないのは、実に情
けないばかりである。

まあ、今年の冬も越年越冬を行いますので、良か
ったら路上にお越し下さいませ。ご協力もお願い致
します。

毎年のことで御免！

(了)





<2012年連絡会の主な活動>

3.14国会行動を行いました。

自立支援法の延長を求め久しぶりの国会行動をやり抜きました。新宿からは100名あまりの仲間、支援者が結集。昼から議員会館前で座り込みを単独で決行、その後全国ネット主催の院内集会に合流しました。

2年ぶり花見の会を再開しました。

4月7日に2年ぶりに花見の会を新宿中央公園で再開しました。200名を超える仲間が冬を越したことを喜びあいました。

自立支援法延長を求める新宿メーデー

今年のメーデーは自立支援法延長要求で一本化です。例年のメーデー集会には250名の仲間が大結集。東京都にも自立支援法延長を国に強力に働きかけるよう要請文を提出。交渉も行いました。

当事者、そして地方自治体からの包囲網が、混乱する国会の中でも良心的な超党派の国会議員を動かし、6月20日、国会でホームレス自立支援法の5年間の延長が決定されました。

戸山公園のテント移行が完了しました

ホームレス自立支援法の延長問題の最中でも、地道な活動は続けられています。連絡会は国体開催に伴う戸山公園内工事開始の報に、すぐさま公園管理事務所、新宿福祉事務所との協議を開始。平和的な解決を探り、結果、受け皿をNPO新宿が管理する「麦の家」など個室施設への移動とし、当事者のテントからの撤収を何の混乱もなく6月まで完了しました。

新宿夏まつり500名で開催。

今年の夏まつりは8月11-12日、例年通り新宿中央公園で開催されました。路上生活者が少なくなっていると言われる中でも、例年並みの人数が新宿の地には集まってくれます。仲間の関係が、どこに居たとしてもこう云う時につながります。実に楽しいお祭りでした。

新宿連絡会 会計報告

2011年度と2012年度4-9月報告

今期も多くのご支援を頂き、夏から秋にかけての日常活動を支えて頂きました。どうもありがとうございます。これから越冬越冬と連絡会が最もお金を使う季節となりました。頂いたお金は仲間のために全て使い切ります。引き続きご支援宜しくお願い致します。

2011年度 新宿連絡会会計収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	132,732
1 寄付金収入	7,941,382	事務用品費	30,600
		衛生管理費	10,903
計上収入合計	7,941,382	支払手数料	26,443
		車両費	83,524
II 計上支出の部		事務所分担金	2,990,000
1 事業費		雑費	95,627
炊き出し事業	1,763,397		
越冬越冬事業	1,308,995	計上支出合計	8,497,307
夏まつり事業	910,011	計上収支差額	△555,925
花見事業	0	前期収支差額	△44,075
池袋支援事業	235,000	次期繰越金	△600,000
その他活動事業	391,921		
2 管理費			
旅費交通費	52,760		
通信費	465,394		

2012年度4-9月期 新宿連絡会会計収支報告

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 計上収入の部		消耗品費	354,444
1 寄付金収入	4,121,407	事務用品費	3,585
		衛生管理費	58,191
計上収入合計	4,121,407	支払手数料	2,088
		車両費	27,527
II 計上支出の部		事務所分担金	1,380,000
1 事業費		修繕費	11,414
炊き出し事業	803,747	雑費	0
越冬越冬事業	0		
夏まつり事業	682,490	計上支出合計	3,766,602
花見事業	103,554	計上収支差額	354,805
池袋支援事業	15,000	前期収支差額	△600,000
その他活動事業	91,412	次期繰越金	△245,195
2 管理費			
旅費交通費	2,150		
通信費	231,000		

越冬用毛布、ホカロン、食材などを募集しています。

現在、400名近い新宿の路上の方々に私たちは様々な支援を行っています。その中でも衣類の問題は、路上の方々にいつも清潔で、世間から後ろ指をさされぬためにも重要性が増しています。冬場は防寒用に厚手の衣類（防寒着類）や毛布類を集中して提供していきます。

また、炊き出し数増加による炊出し用のお米の緊急募集もこの間行っていましたが、お陰様でお米は順調に集まっています。今の現状では、炊出しに関しては年を越せそうな感じでございます。

他方で、冬場に必要なのはこれから集めていかざるを得ません。

とりわけ、毛布、布団（薄手の布団類）、寝袋類、医薬品、石鹸、タオルなどの日常品が不足しております。

衣類に関しては男性もののジャンパー、コートなど防寒用の上着類が不足しております。

皆様のお気持ちに感謝し、そしてそのお気持ちを路上に届ける役目を私たちはこれからも果たしていきたいと思ひます。

引き続きのご寄付、宜しくお願い致します。

2012~2013

冬だから

第19次新宿越年越冬

2012年12月28日（金）～2013年1月3日（木）

＜ところ＞ 新宿中央公園～水の広場

炊き出し準備 連日11時集合。炊き出し連日（28日は晩飯のみ）＜昼飯＞正午配食＜晩飯＞午後7時配食。医療テント（29日より）24時間体制。連日夜間パトロール、深夜、昼間も有り。夜は頑張れ越冬コンサート、新春映画祭など。31日は年末大イベント、正月は新春餅つき大会など仲間を励ます企画が今年も盛りたくさん。都合の時間には是非中央公園に！

越冬闘争資金カンパ

**毛布、ホカロン、
医薬品**

募 集 中 !!

**主催・新宿連絡会
03-6826-7802**

詳しくは
<http://www.tokyohomeless.com>

●活動カンパ 振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.giveone.net/>「Give One（ギブワン）」（登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。）からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）をお願いします。